

SDGsとは、深刻化する地球上の問題を、2030年までにより良くするために、国連で貧困、教育、気候変動など17のゴールと169のより具体的な目標(ターゲット)に集約した世界共通の目標です。

郡山市は「SDGs未来都市」として、様々な分野の人・情報・研究成果などが行き交う「知の結節点」としての強みを生かし、こおりやま広域圏に住むすべての方が「自分ごと」として将来世代のために行動できるようにSDGsの達成に取り組んでいます。

また、SDGsの目標年限である2030年以降を見据えて、「身体的・精神的・社会的に良好な状態」を意味するウェルビーイングを推進しています。

市民の皆様のSDGsやウェルビーイングへの関心や取組みを把握するとともに、今後の推進に向けた参考とするためアンケートを実施しました。その結果についてお知らせします。

(未来創造課)

【調査概要】

- 調査期間 2025年12月16日(火)～12月25日(木) 10日間
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を返信
- モニター数 427名 (男性 185名 女性 241名 その他 1名)
- 回答者数 372名 (男性 159名 女性 212名 その他 1名)
- 回答率 87.1%



郡山市ウェブサイト
SDGs未来都市こおりやま

【分析】

《回答者内訳》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性	2	3	12	29	40	37	23	12	1	159
女性	5	8	29	62	59	40	8	1	0	212
その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	7	12	41	91	99	77	31	13	1	372

《問1 SDGsをご存知ですか?》

88.7%が「知っている」、10.8%が「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答

認知度は、2022年に80%を超えて以降、微増しているものの横ばい傾向となっている。

(2019年:11.5%→2025年:88.7%)



《問5 日常生活においてSDGsを意識して行動していますか?》

日常生活においてSDGsに関する行動をしている割合は、2021年の61.9%から2025年では81.2%と年々増加している。意識して行動している割合は2024年の21.8%から16.9%と4.9ポイント減少したものの、SDGsの考え方が浸透し、意識しなくても行動できるようになってきたと捉えることもできる。

《問14 ウェルビーイングについてご存知ですか?》

「知っている」が22.0%、「聞いたことはあるが内容はわからない」が34.9%で、言葉として知っている割合は56.9%となっている。今後はその内容について周知していく必要がある。

【考察】

・SDGsの認知度及び関心度については頭打ちの傾向が継続しているが、意識的かどうかにかかわらずSDGsに関する行動をしている人の割合が調査開始以来初めて80%を超えるなど、SDGsの考え方や行動が浸透してきたことがうかがえる。

・一方で、SDGsを知る前後で行動が変わっていないと答えた割合が30%以上いることから、より具体的かつ日常生活に溶け込むような行動について、今後周知していくことが必要だと思われる。

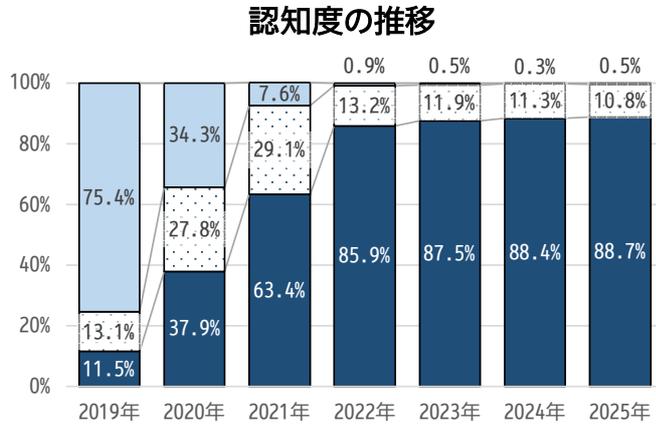
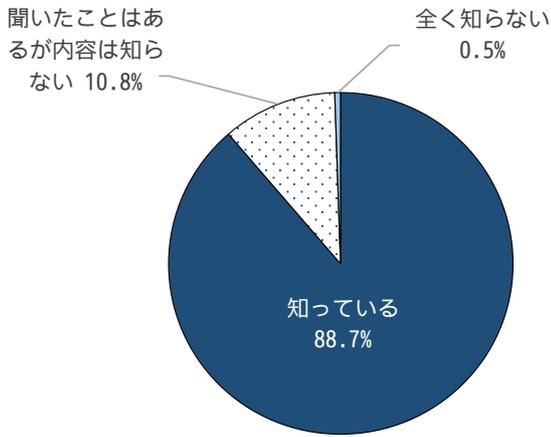
・ウェルビーイングについては、認知度が低いため、情報発信の機会を増やすことが必要である。

※割合(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
 ※10代及び90代は回答者が少ないため、「10~20代」「80代以上」としてまとめています。

第1章 SDGsの認知度について

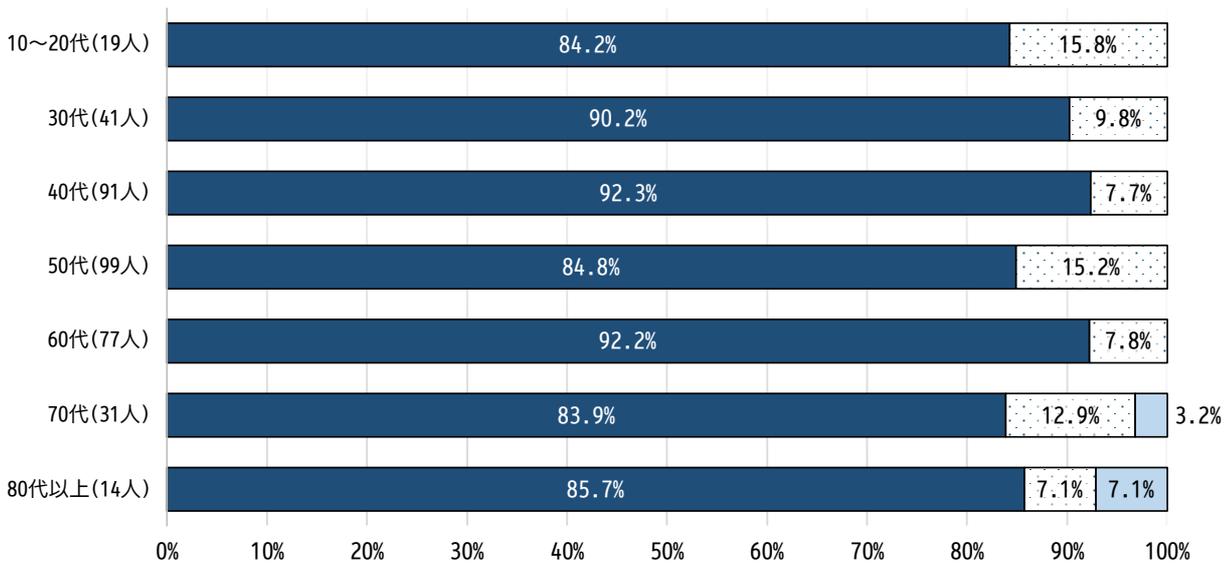
問1 SDGs(エスディージーズ)をご存知ですか？(1つ選択)

(回答者：372人)

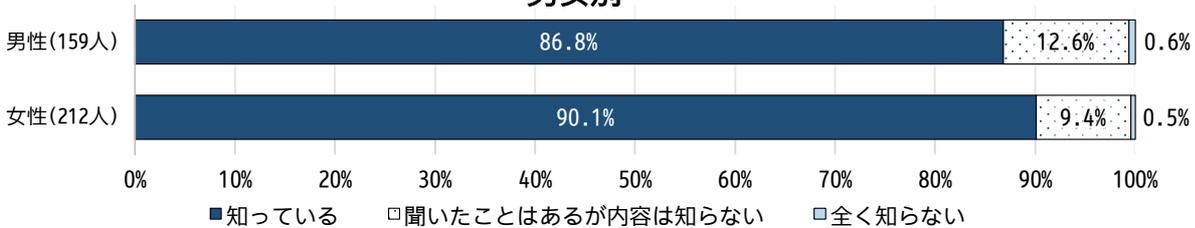


□全く知らない □聞いたことはあるが内容は知らない ■知っている

年代別



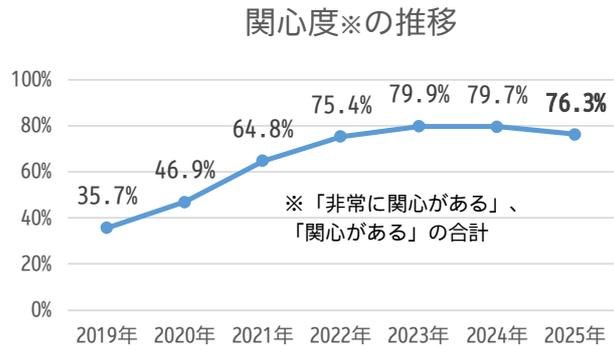
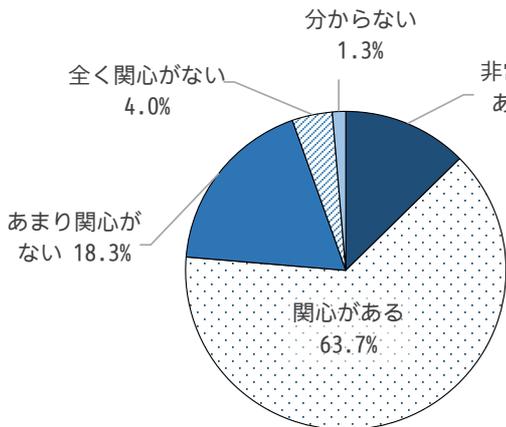
男女別



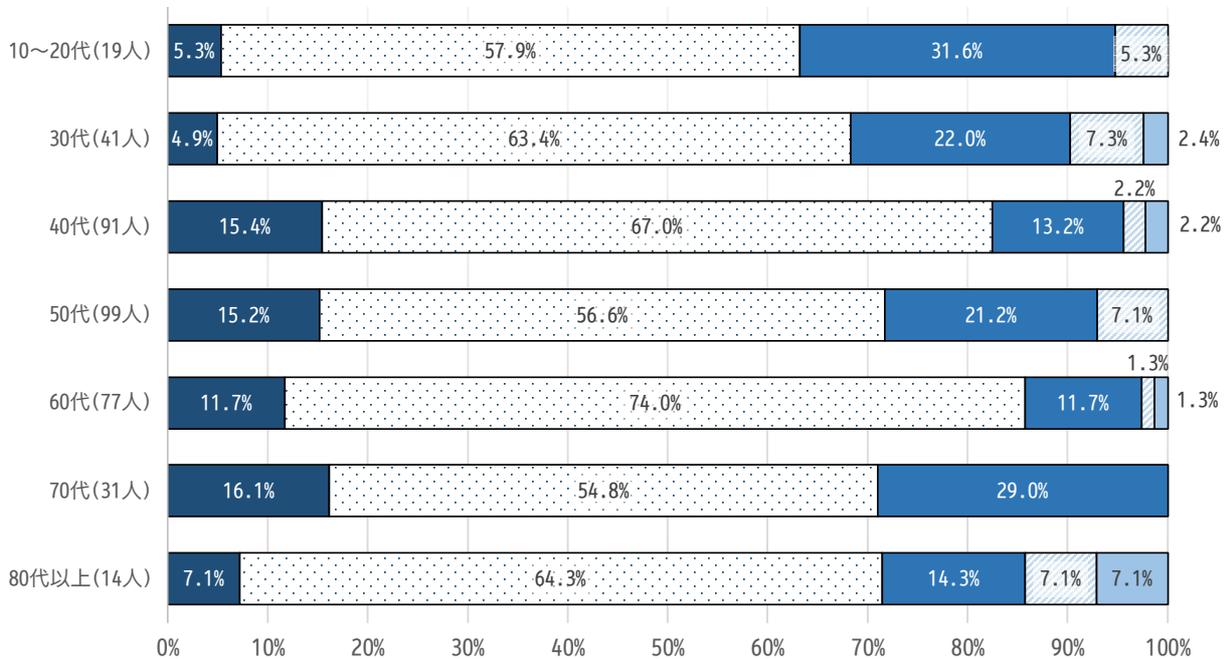
SDGsの認知度について、「知っている」と答えた割合は全体の88.7%。昨年度調査と比べると、認知度(知っている)は0.3ポイント増加しているが、ほぼ横這いでSDGsが広く浸透していることがわかった。また、年代や性別によって認知度に大きな差はなかった。

問2 SDGsについてのどの程度関心がありますか？（1つ選択）

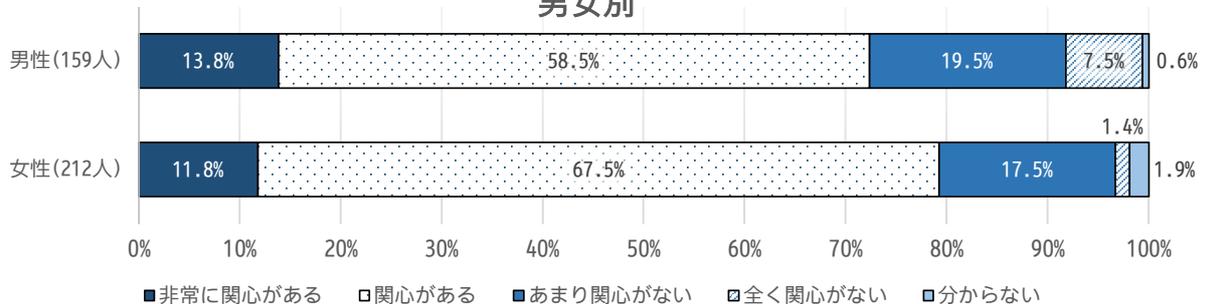
（回答者：372人）



年代別



男女別

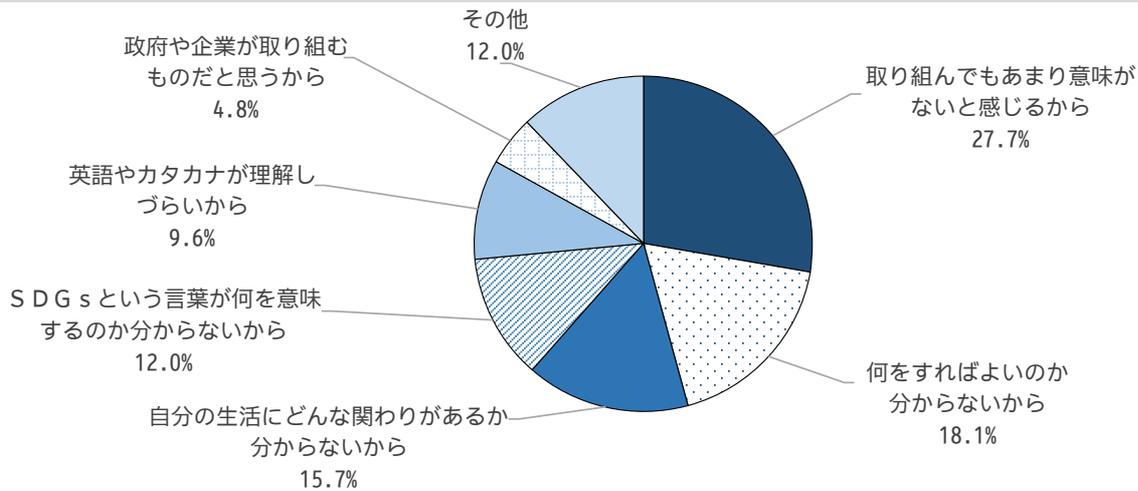


全体では、「非常に興味がある」と「興味がある」の合計の割合は計76.3%となっており、昨年度から3.4ポイント減少した。認知度と同様に、関心度の伸び率はこれまでと比べると小さくなっている。10～20代の「非常に興味がある」と「興味がある」の合計の割合は58.4%とほかの年代と比べて低くなっている。なお、昨年度調査時は75.0%であり、ほかの年代と大きな差はなかった。

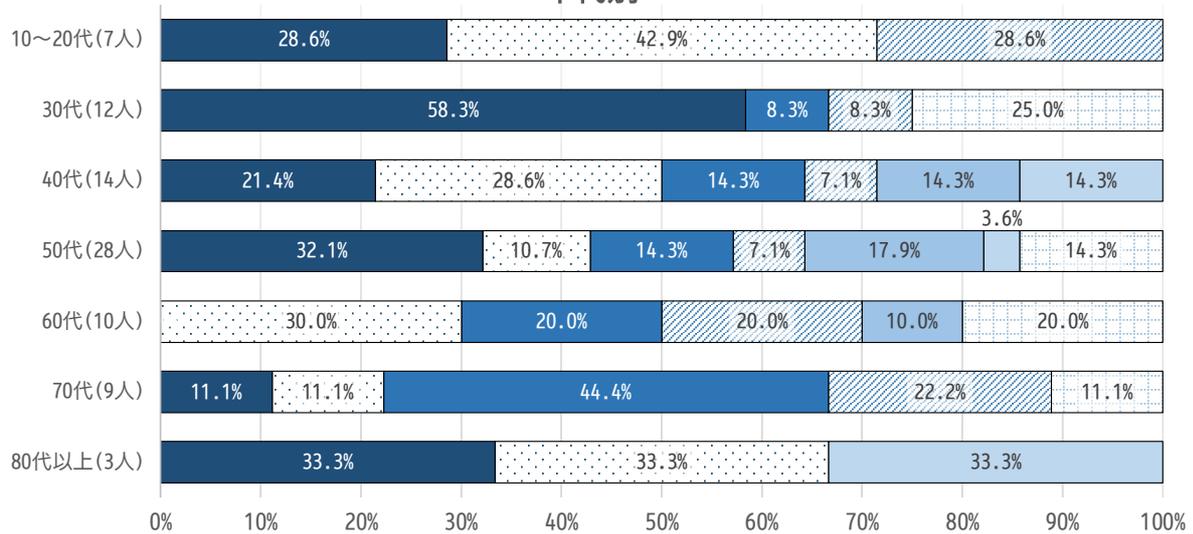
問3 問2で「あまり関心がない」「全く関心がない」を選択した方にお伺いします。

SDGsに関心がない理由は何ですか？（1つ選択）

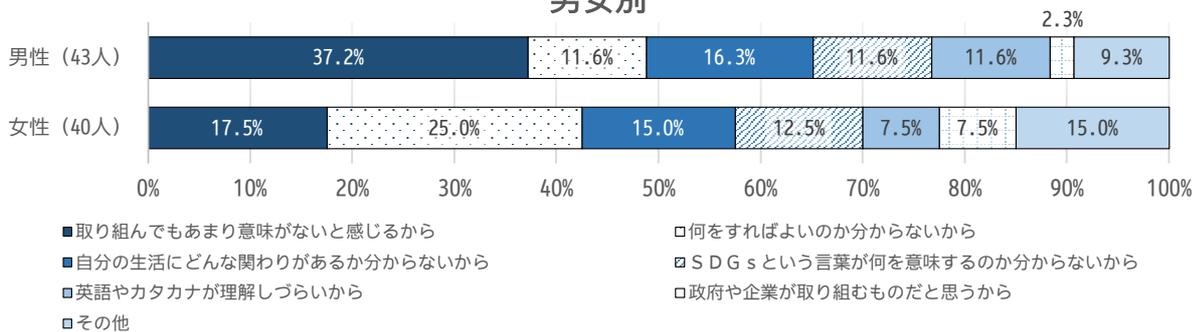
（回答者：83人）



年代別



男女別



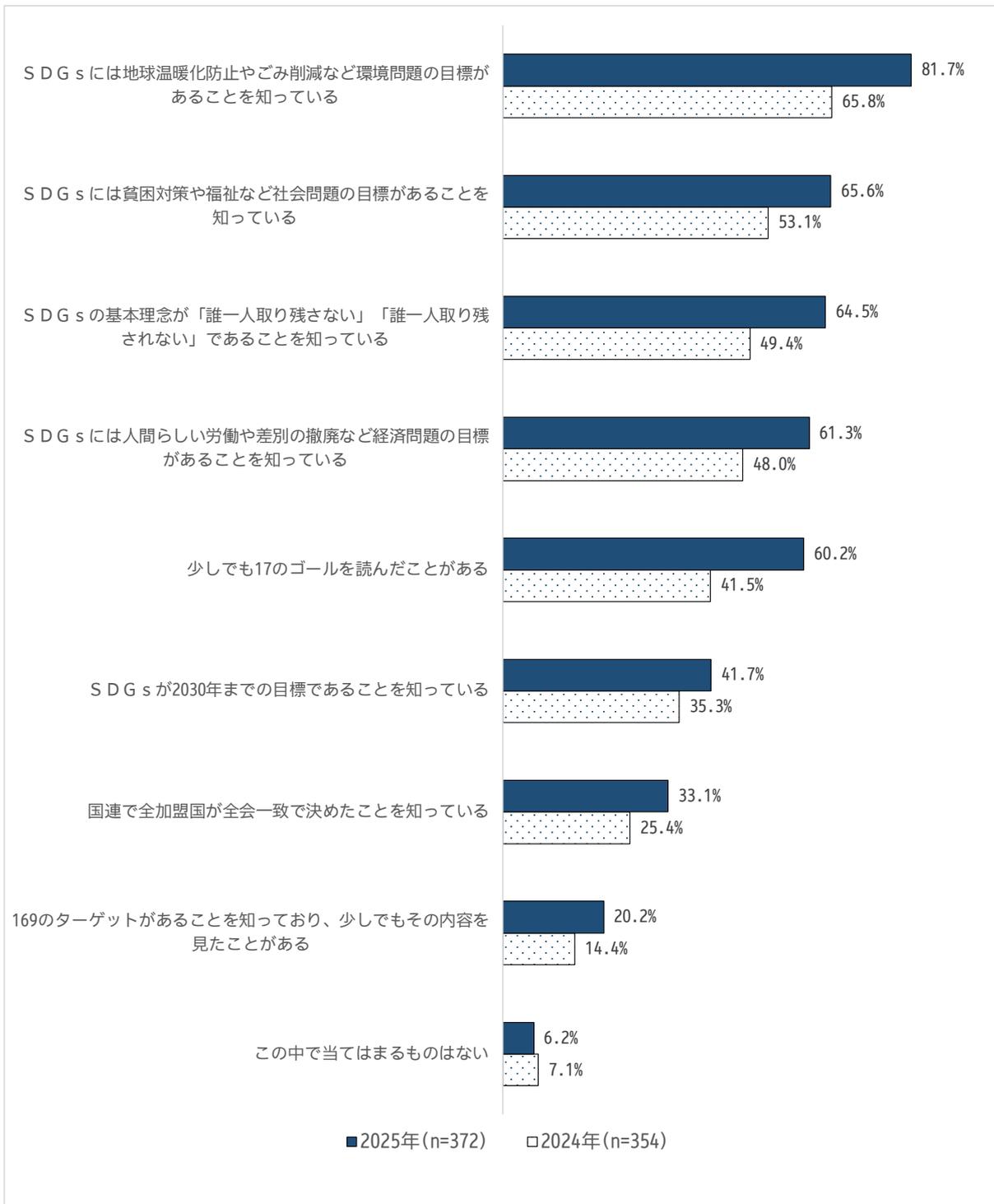
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・当然（普通）のことだと思うから
- ・SDGsの項目が多すぎてわからない

「取り組んでもあまり意味がないと感じるから」が27.7%、「何をすればよいのか分からないから」が18.1%、「自分の生活にどんな関わりがあるか分からないから」が15.7%だった。
また、30代の58.3%及び男性が「取り組んでもあまり意味がないと感じるから」を選択した割合が多かった。

問4 SDGsの内容についてどの程度知っていますか？（当てはまるもの全て選択）

（回答者：372人）

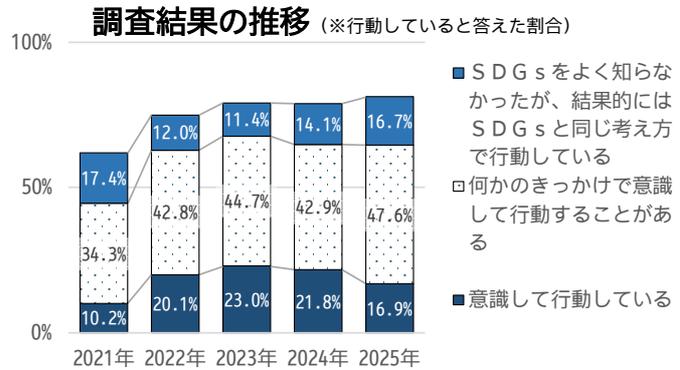
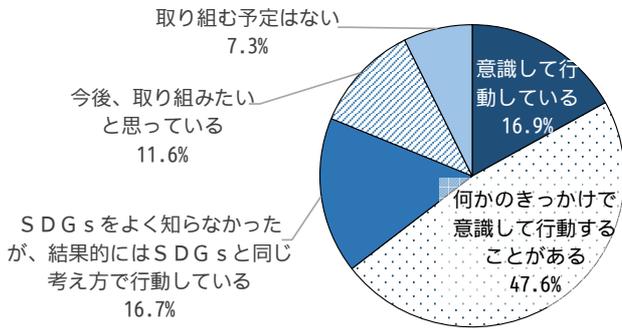


SDGsが持つ3つの側面である「経済」「社会」「環境」のうち、特に「環境」について知っている割合が高く、「SDGsには地球温暖化防止やごみ削減など環境問題の目標があることを知っている」については、昨年の65.8%から15.9ポイント増加した。
 一方、169のターゲットについては20.2%と低い水準であり、より具体的な内容について知る機会を創出することが必要である。

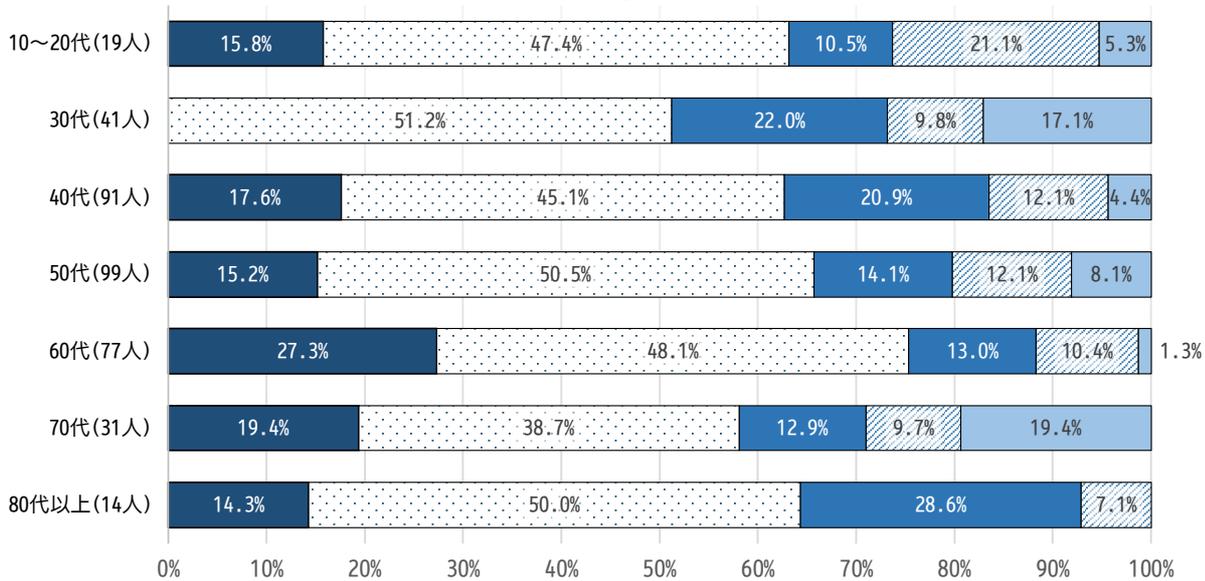
第2章 みんなの取り組みについて

問5 日常生活においてSDGsを意識して行動していますか？（1つ選択）

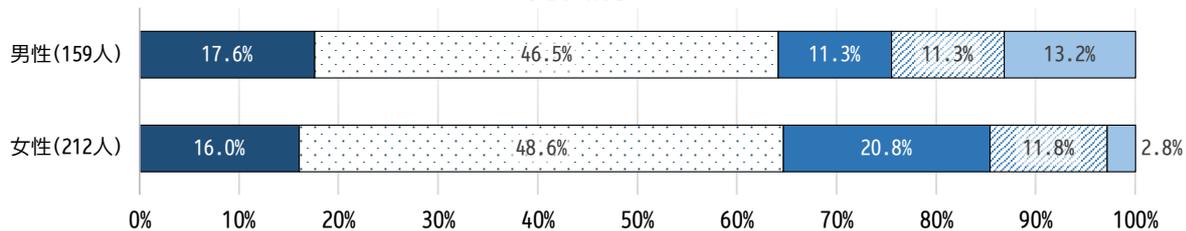
（回答者：372人）



年代別



男女別



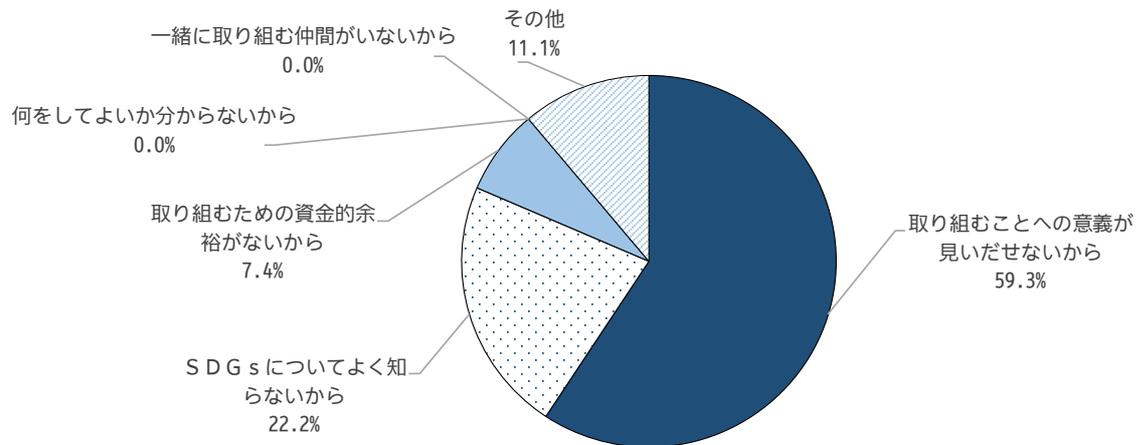
- 意識して行動している
- 何かのきっかけで意識して行動することがある
- SDGsをよく知らなかったが、結果的にはSDGsと同じ考え方で行動している
- 今後、取り組みたいと思っている
- 取り組む予定はない

「意識して行動している」の割合が16.9%と昨年より4.9ポイント減少したものの、「意識して行動している」「何かのきっかけで意識して行動している」「SDGsをよく知らなかったが、結果的にはSDGsと同じ考え方で行動している」の合計は81.2%と昨年より2.4ポイント増加し、8割の人が何らかの行動をしていることがわかった。

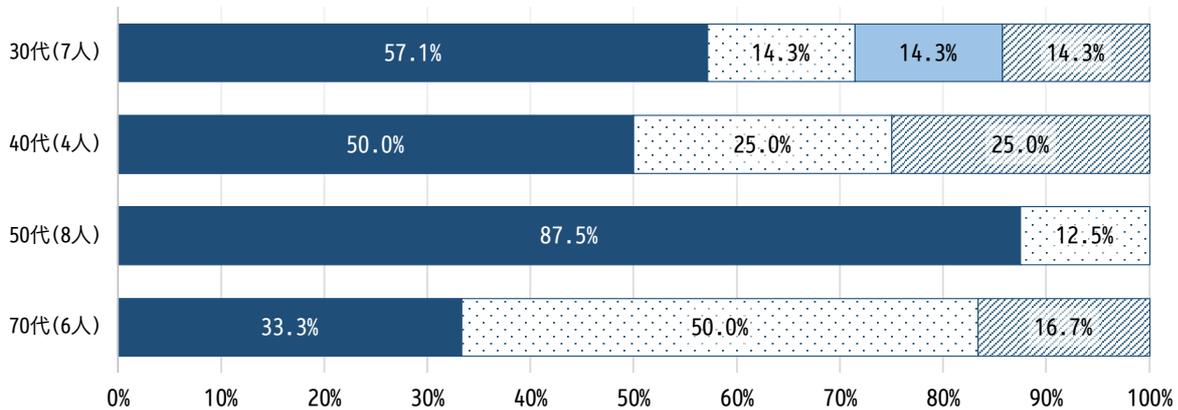
また、男女別でみると「取り組む予定はない」と回答した男性が多くなっている。

問6 問5で「取り組む予定はない」を選択した方にお伺いします。
その理由は何ですか。（1つ選択）

（回答者：27人）



年代別



- 取り組むことへの意義が見いだせないから
- SDGsについてよく知らないから
- 取り組むための資金的余裕がないから
- ▨ その他

※回答者数3人以上を表示

※「その他」を選択した方の主な意見

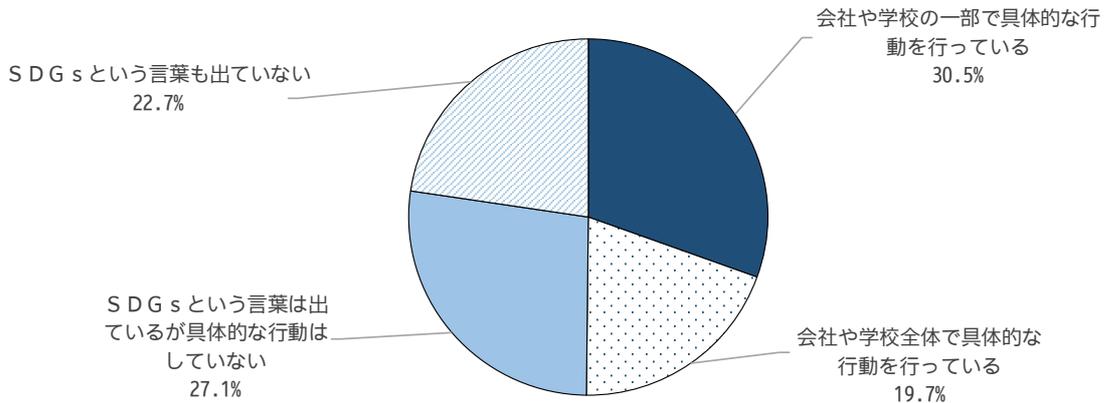
- ・興味がない。普段の生活でSDGsに当てはまることはあるが、わざわざ意識はしていない。

問5で「取り組む予定はない」と回答した理由について、「取り組むことへの意義が見いだせないから」が最多となっており、次いで「SDGsについてよく知らないから」となっている。少数だが「取り組むための資金的余裕がないから」との答えもあったため、SDGsの基礎的な内容に加えて資金的な負担がなく取り組める内容を紹介・PRする必要がある。

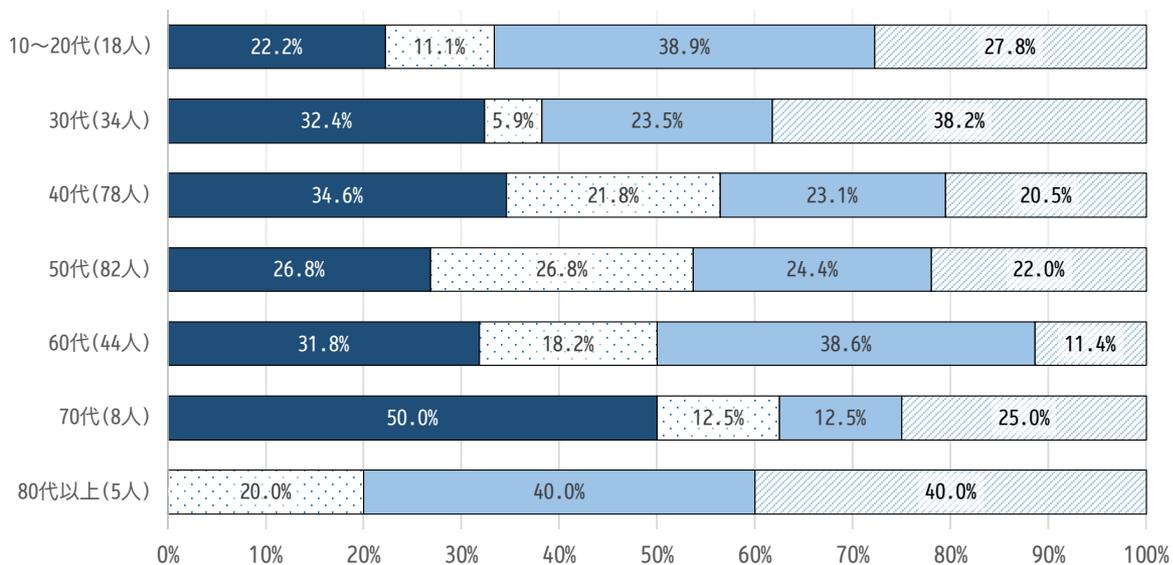
問7 あなたが所属している会社や学校でSDGsの取り組みを行っていますか。(1つ選択)

※「会社や学校には所属していない」と回答した103人除く

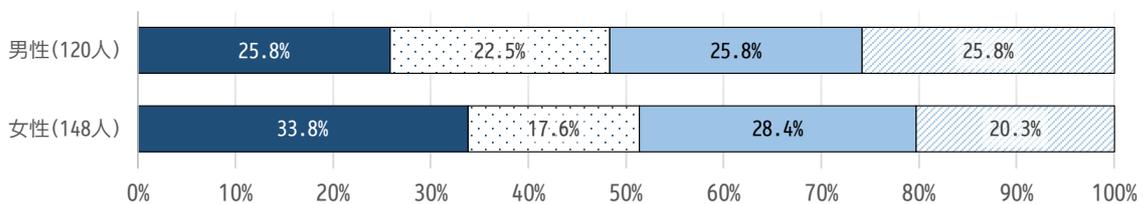
(回答者: 269人)



年代別



男女別

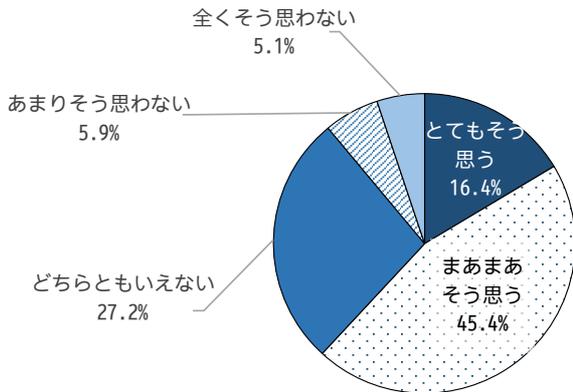


- 会社や学校の一部で具体的な行動を行っている
- 会社や学校全体で具体的な行動を行っている
- SDGsという言葉は出ているが具体的な行動はしていない
- SDGsという言葉も出ていない

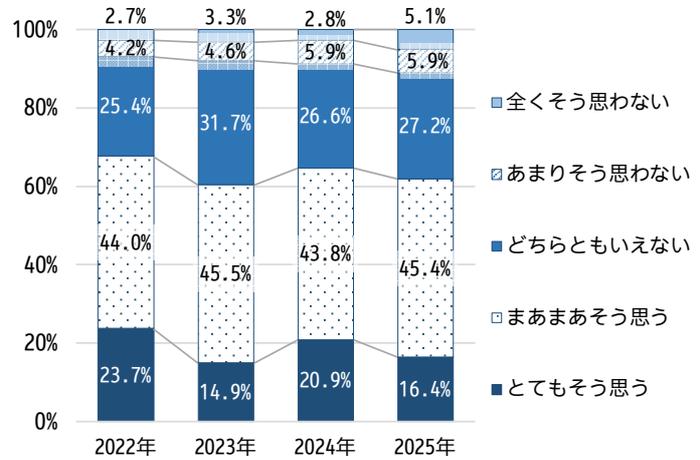
「会社や学校全体で具体的な行動を行っている」と「会社や学校の一部で具体的な行動を行っている」と回答した割合が50.2%となっており、約半数の会社や学校が何らかの具体的な行動を行っている。引き続き、具体的な行動を促していくことが必要だと思われる。

問8 SDGsの取り組みをしている企業に就職したいと思いませんか？
あるいは周囲に就職を薦めたいと思いませんか？（1つ選択）

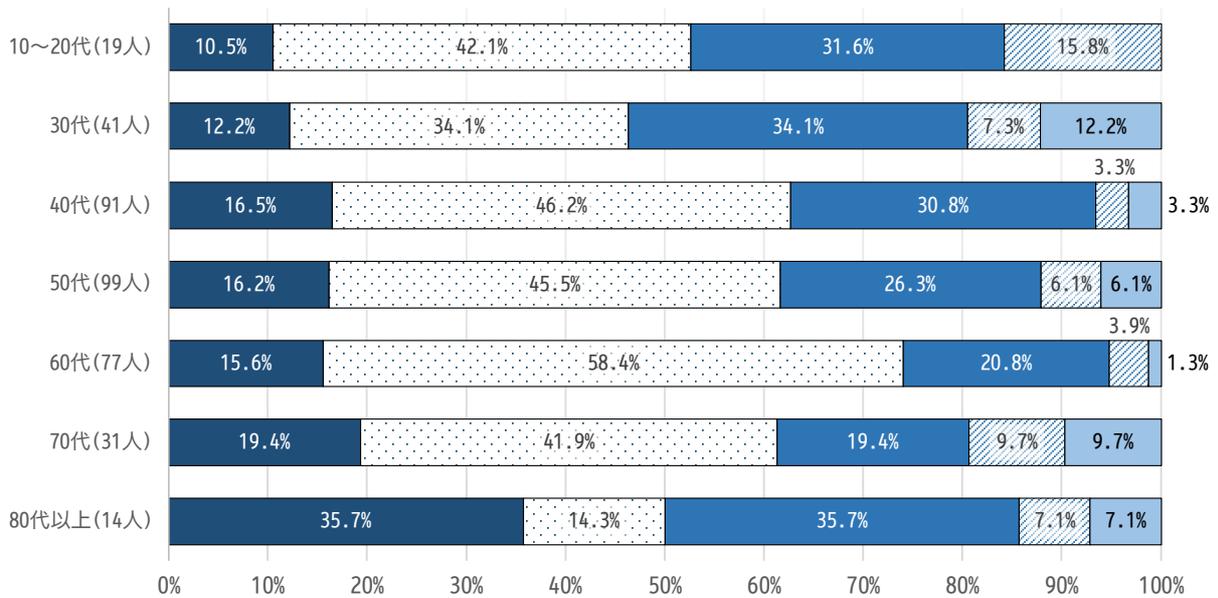
（回答者：372人）



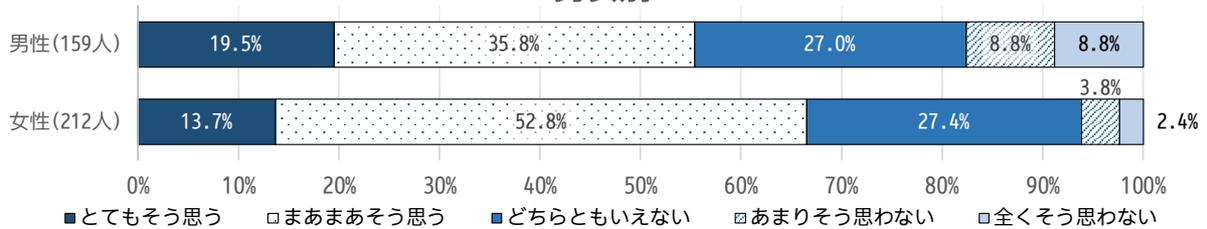
調査結果の推移



年代別



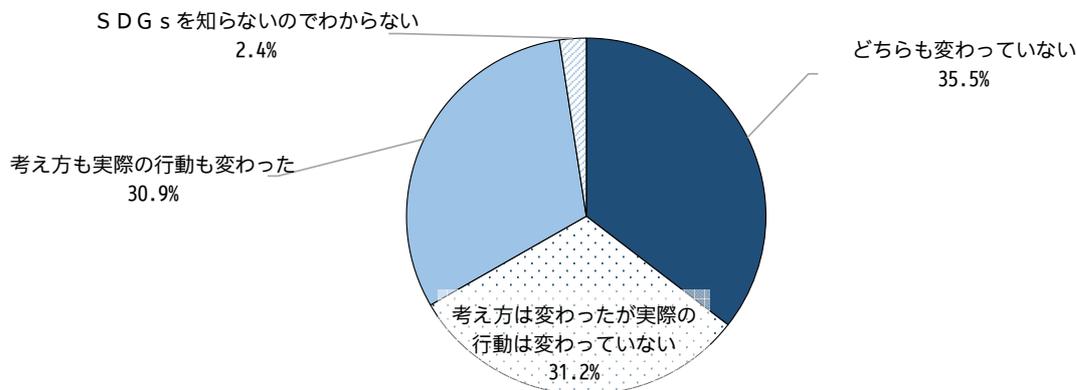
男女別



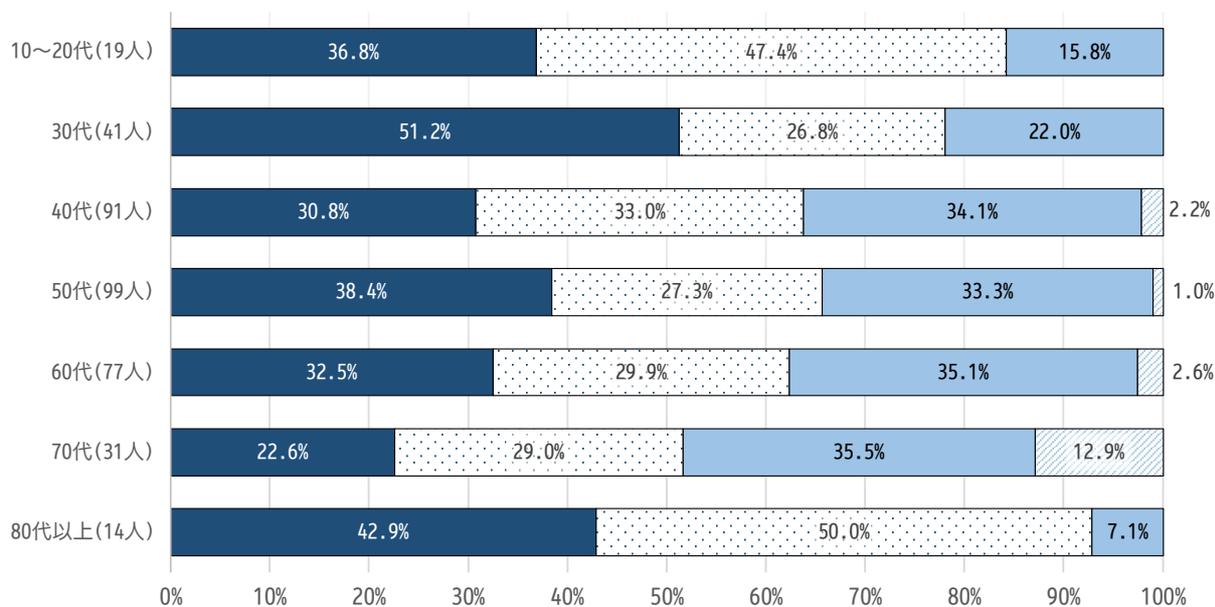
全体では、「まあまあそう思う」が45.4%で最も多く、次いで「どちらともいえない」27.2%、「とてもそう思う」16.4%となっている。
年代別で見ると、年代が高くなるにつれて「とてもそう思う」と答えた割合が増える傾向がある。

問9 SDGsを知る前と後で自身の考え方や実際の行動に変化がありましたか？
(1つ選択)

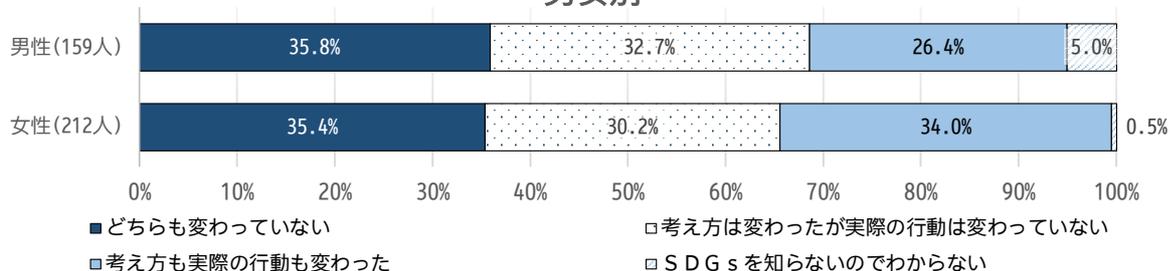
(回答者：372人)



年代別



男女別

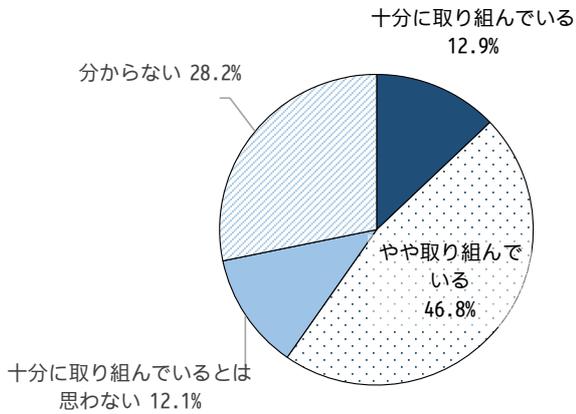
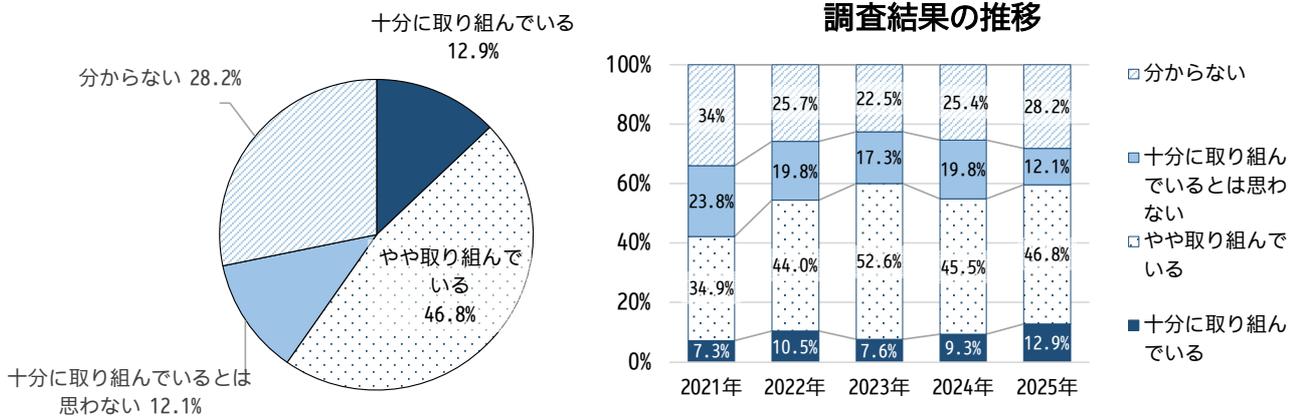


「考え方も実際の行動も変わった」が30.9%と約3割の人がSDGsを知ることで行動が変わったと答えた。一方「どちらも変わっていない」「考え方は変わったが実際の行動は変わっていない」の合計が66.7%と多くの場合はSDGsを知るだけでは、実際の行動変容に至っていないことがわかった。

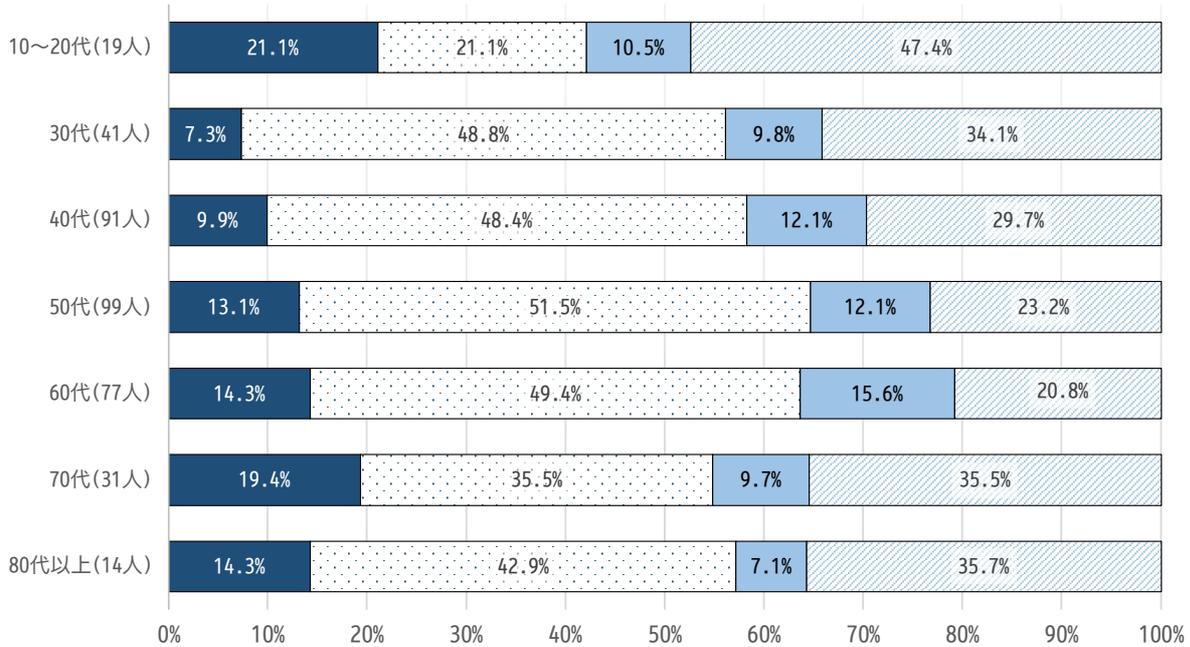
第3章 本市のSDGsに関する取り組みについて

問10 郡山市のSDGsへの取り組みについてはどう思いますか？（1つ選択）

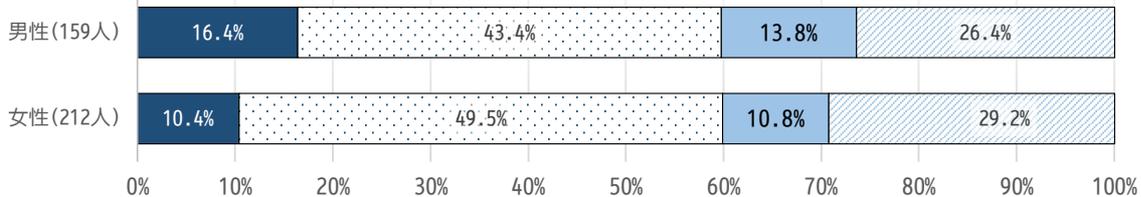
（回答者：372人）



年代別



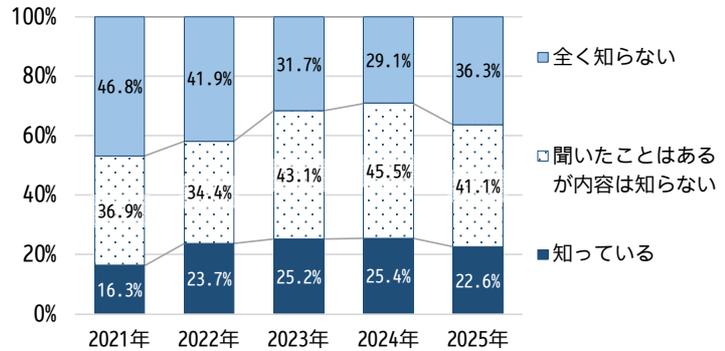
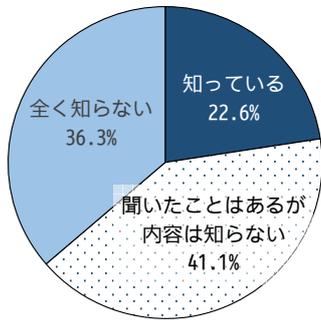
男女別



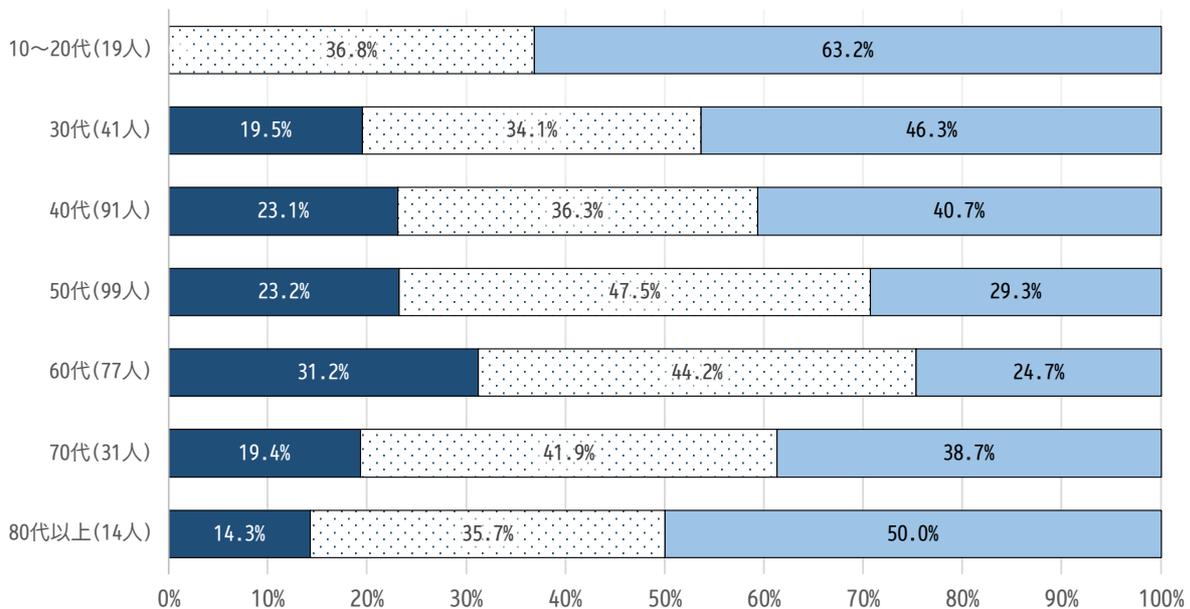
「十分に取り組んでいる」が12.9%で前回調査時から3.6ポイント増加した一方で、「十分に取り組んでいるとは思わない」が12.1%で7.7ポイント減少しており、それぞれ直近5年間で最大と最小を記録するなど、取組に対するはっきりとした評価が出てきている。
 年代別で見ると、30代及び40代において「十分に取り組んでいる」の割合が低く出ており、現役世代へのアプローチが課題となっている。

問11 こおりやま広域圏内において、「SDGs体感未来都市」の実現に向け、特に優れた取り組みを進めている市民、団体等を表彰する「こおりやまSDGsアワード」をご存知ですか？（1つ選択）
（回答者：372人）

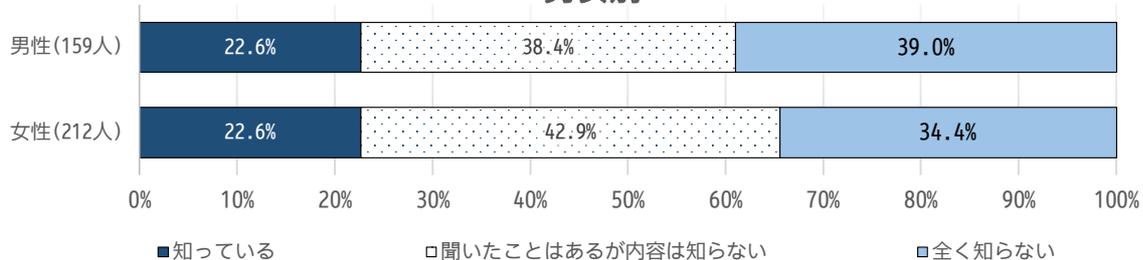
調査結果の推移



年代別



男女別

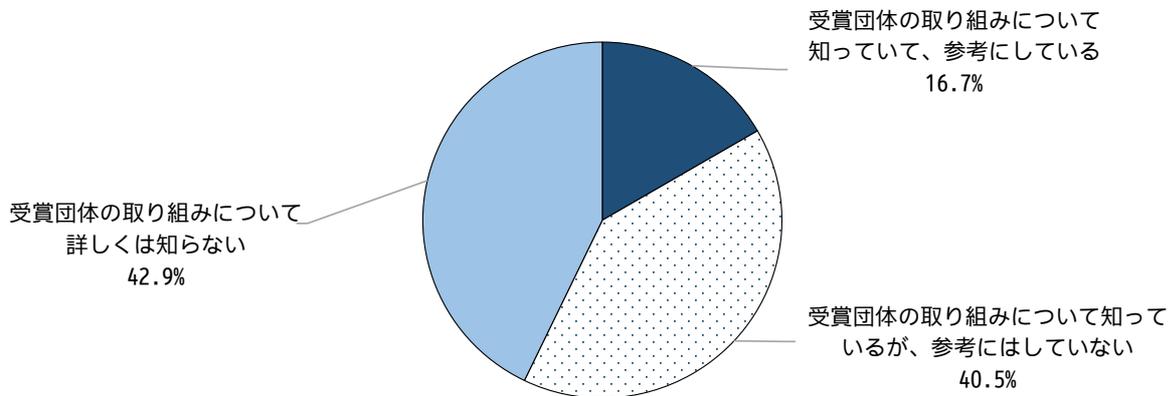


「こおりやまSDGsアワード」の認知度について、「知っている」の割合は22.6%と前回調査から2.8ポイント減少し、調査開始以来初めて減少した。一方で「全く知らない」が36.3%と前回調査より7.2ポイント高くなっており、認知度が減少した結果になった。

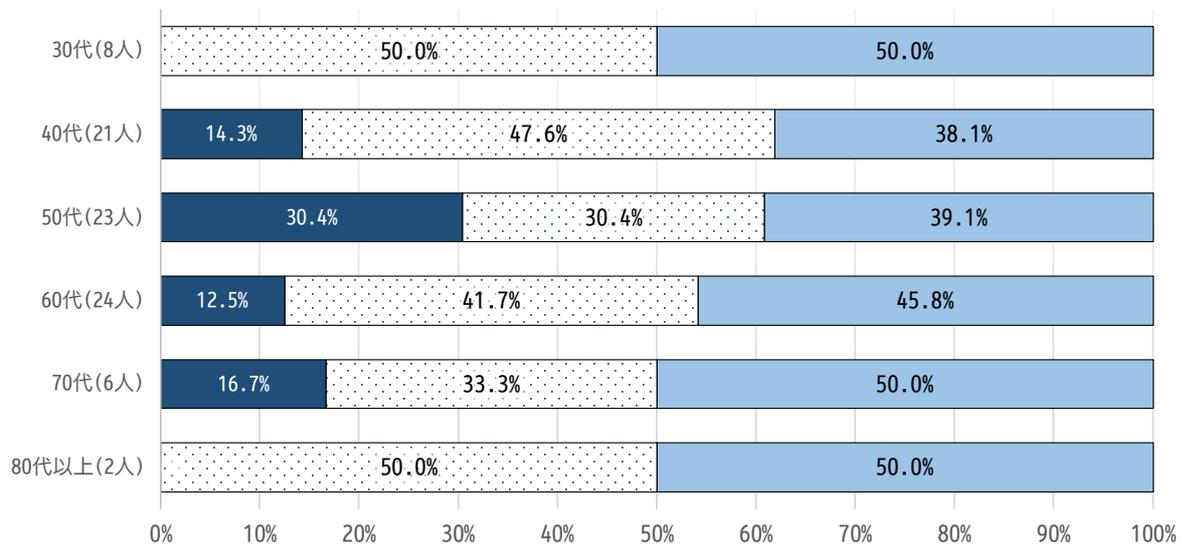
新聞などのメディアを活用した「こおりやまSDGsアワード」のPRなど周知方法や回数を見直す必要がある。

問12 問11で「知っている」を選択した方にお伺いします。
 こおりやまSDGsアワードについて伺います。(1つ選択)

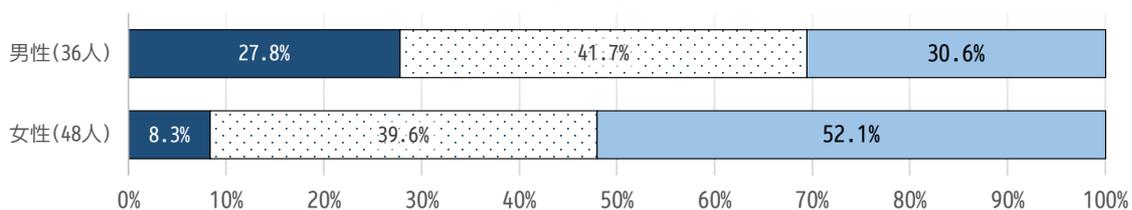
(回答者：84人)



年代別



男女別

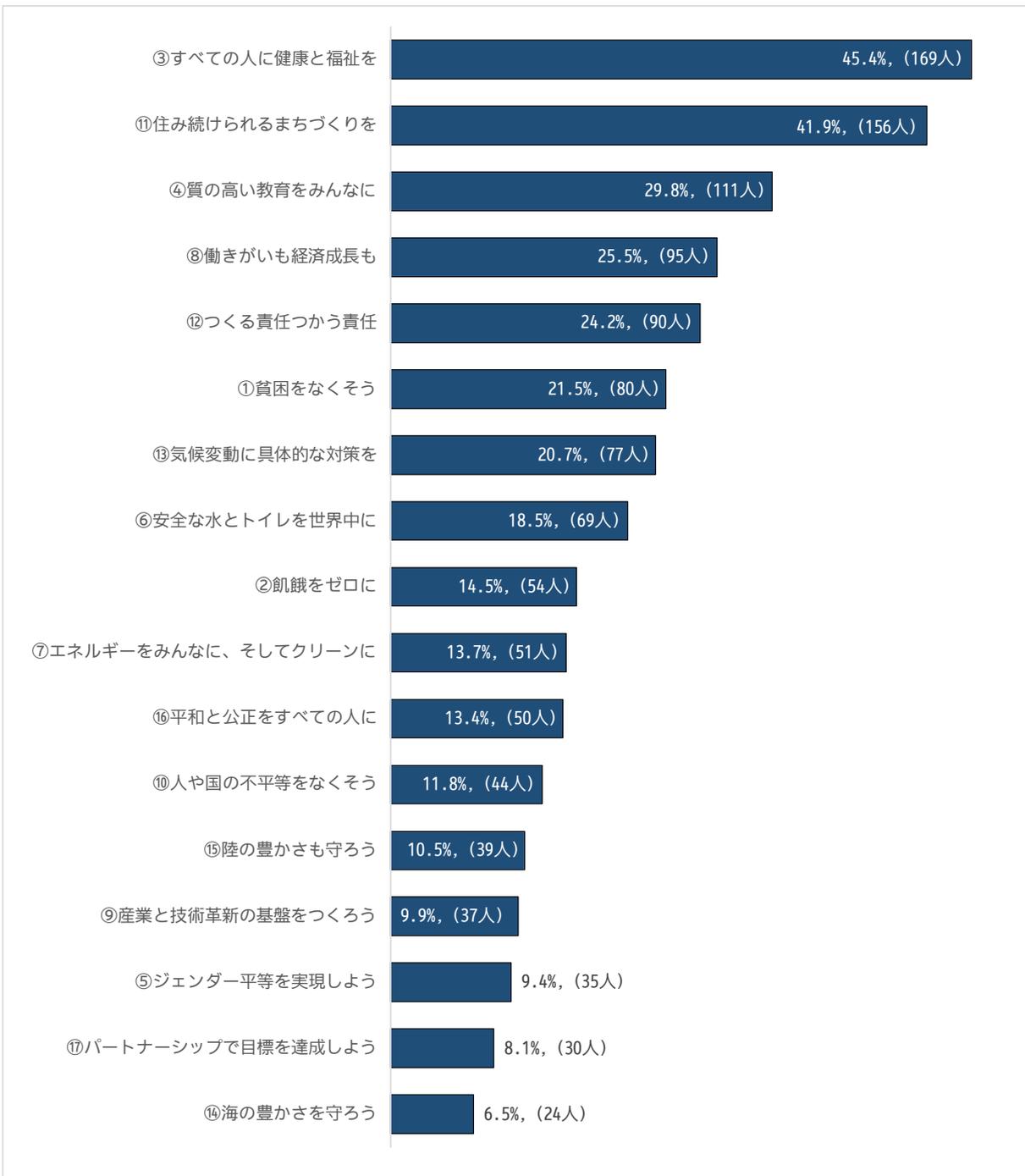


- 受賞団体の取り組みについて知っていて、参考にはしている
- 受賞団体の取り組みについて知っているが、参考にはしていない
- 受賞団体の取り組みについて詳しくは知らない

SDGsアワード受賞団体の取り組みについて知っている割合が57.2%と半数を超えていたものの、参考にはしていると答えた割合は16.7%に留まった。
 受賞団体の取り組みそのものについて周知する機会を設けるとともに、その取り組みを参考にして実際の行動につながるような施策が必要とされている。

問13 郡山市で推進してもらいたいゴールは何ですか？（3つ選択）

（回答者：372人）

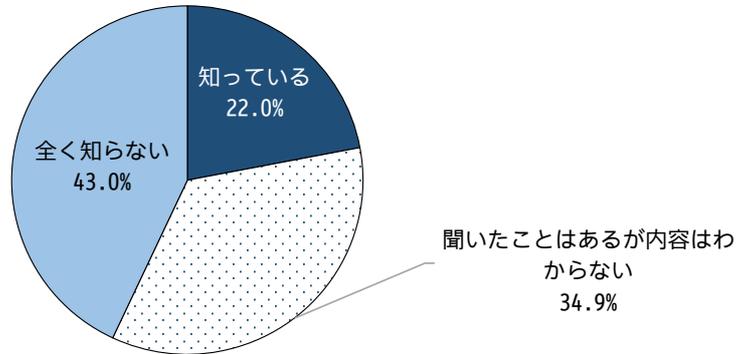


「③すべての人に健康と福祉を」と「⑪住み続けられるまちづくりを」が上位2つとなっており、社会の安全や安心、インフラの維持について行政が役割を果たすことを求められていることがわかった。続いて「④質の高い教育をみんなに」「⑧働きがいも経済成長も」「⑫つくる責任つかう責任」が続いており、次世代を担う人材育成、経済成長や環境保全など生活の維持、向上が求められている。

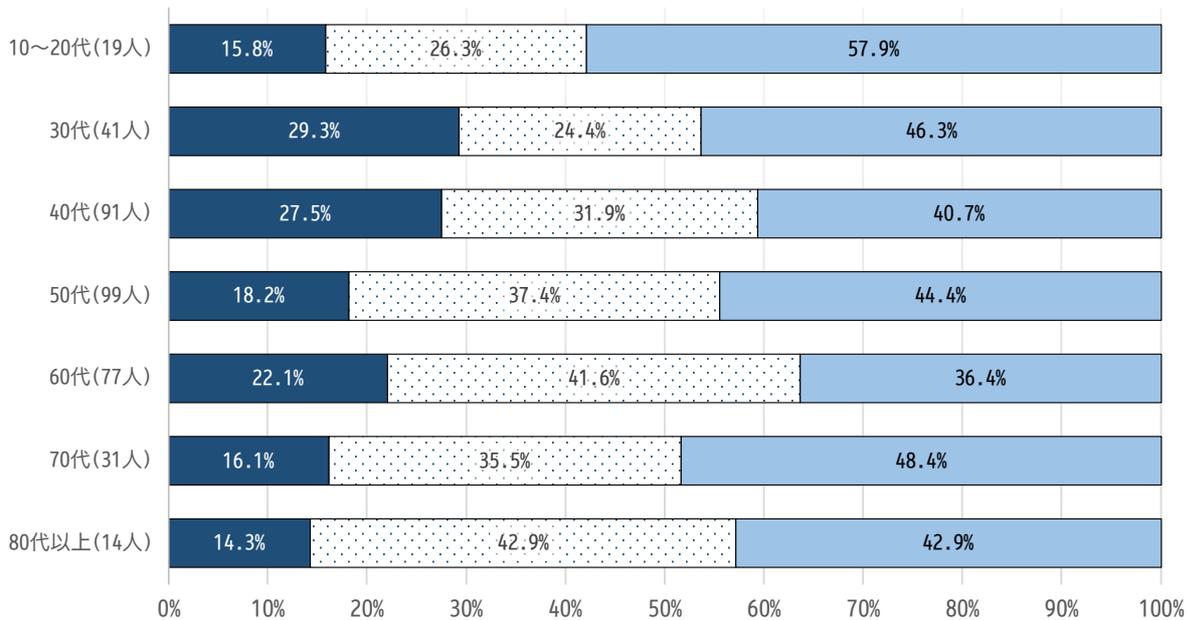
第4章 ウェルビーイングについて

問14 ウェルビーイングについてご存知ですか？（1つ選択）

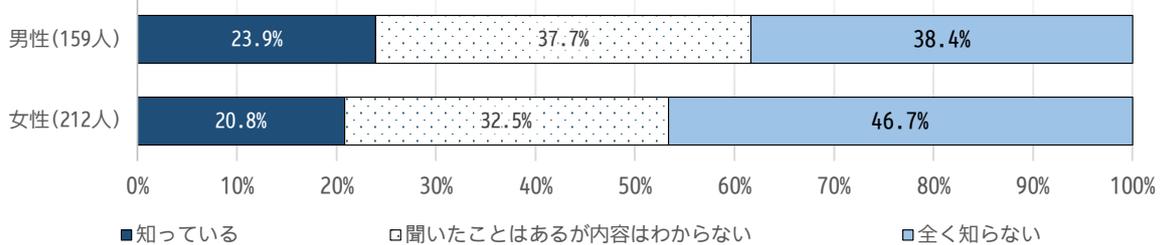
（回答者：372人）



年代別



男女別

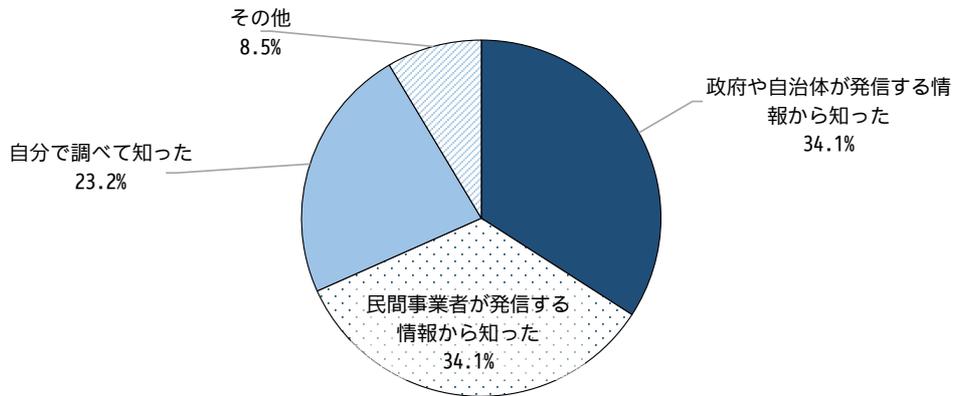


ウェルビーイングについて「知っている」が22.0%、「聞いたことはあるが内容はわからない」が34.9%と言葉としてウェルビーイングを知っている方の割合は56.9%と半数を超えていた。一方、「聞いたことはあるが内容はわからない」と「全く知らない」の合計が77.9%と、その内容までは認知されていないことがわかった。

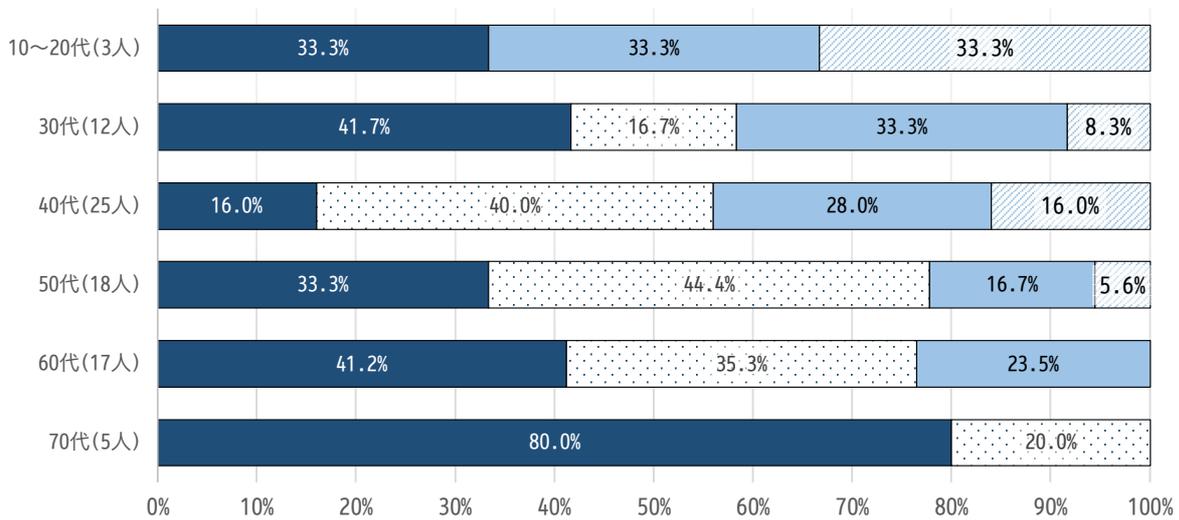
年代別で見ると10～20代において「全く知らない」割合が高く、学校などで目にする機会を増やす必要があると考えられる。

問15 どのようにしてウェルビーイングについて知りましたか？（1つ選択）

（回答者：82人）

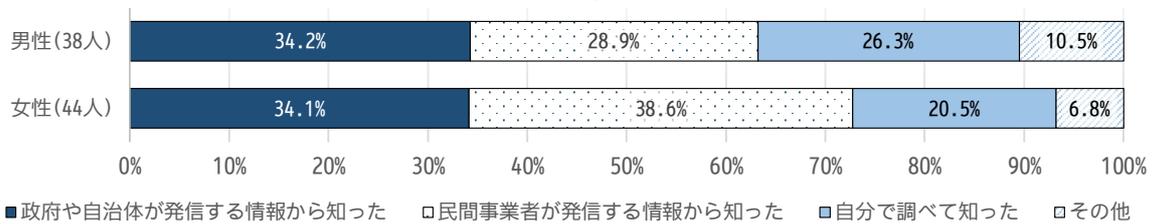


年代別



※回答者数3人以上を表示

男女別

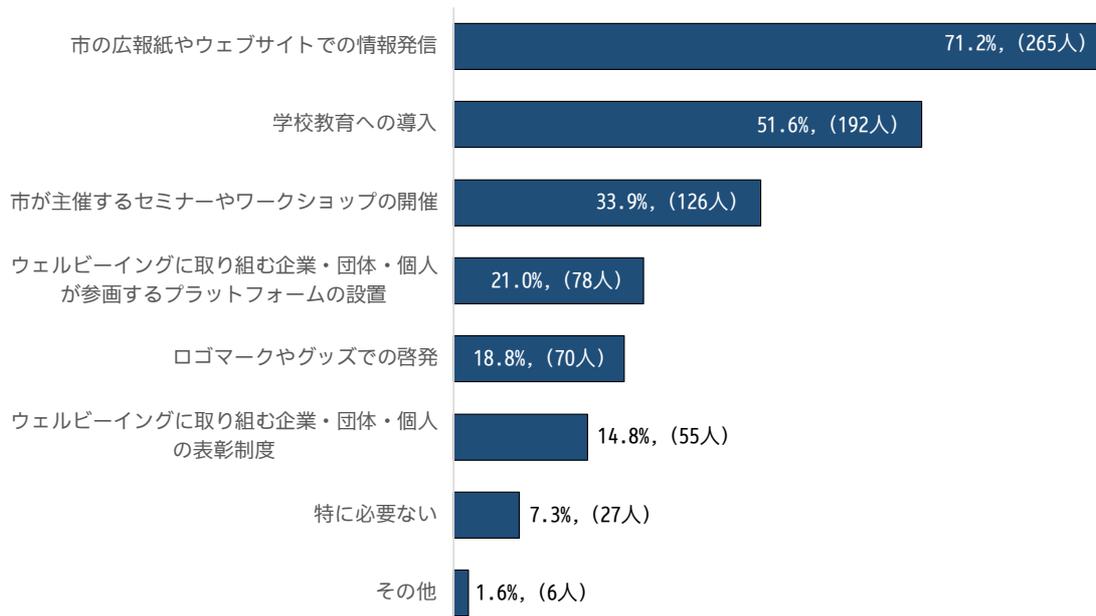


※「その他」を選択した方の主な意見

- ・大学等学校の授業で学んだ
- ・研修やセミナー、本などから知った

「政府や自治体が発信する情報から知った」と「民間事業者が発信する情報から知った」割合が34.1%と同数であり、「自分で調べて知った」が23.2%となるなど、様々な方法でウェルビーイングについて知る機会があることがわかった。

問16 本市のウェルビーイングの推進について理解するために、どのような取り組みがあればよいと思いますか？（当てはまるものを全て選択）（回答者：372人）



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・ SNSのショート動画やテレビ、ラジオなど様々な場面で目にする機会を増やした方がよい
- ・ 学校の授業などで浸透させていくことが大事

「市の広報紙やウェブサイトでの情報発信」が71.2%で一番高く、次いで「学校教育への導入」が51.6%、「市が主催するセミナーやワークショップの開催」が33.9%と続いている。まずは、行政からの情報発信でウェルビーイングに接する機会を増やすことが求められている。

問17 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（回答者：59人）

SDGsの認識について

- ・ 日頃の考えや行動がSDGsにつながっていたのでもっと取り組もうとは思っていないところですが、郡山市で何かをするのなら広報こおりやまや市の公式LINEでチェックしたいです。（40代・女性）
- ・ SDGsの期限が2030年とあったが、「持続可能な」というのなら、期限を設けず、いつでも始めてよし、いつまでも続けられるような取り組みだということで、広まってほしいと思う。（40代・男性）
- ・ 郡山市のSDGsの取り組みはほとんど知らなかった。SDGsという言葉は知っているが、その内容を問われたら明確には認知していない。でも、節約や環境のことを考えた個人的な取り組みは、SDGsという言葉を知る前から行っていた。（50代・女性）
- ・ SDGsを特集した雑誌を見かけたり、日常生活に身近となってきました。まずは自分が今できることから取り組んでいます。必要ないものは購入しない。燃えるゴミにせず、資源ごみにする。洋服、カーテンなどリサイクルに小売店に持ち込みました。（50代・女性）

課題に感じること

- ・SDGsの大きい目標ばかりが目立つのでわかりにくいと思う。誰でもできる目標にするなら、買い物先の場所で取り組んでいる点を表示するとか、まず目につくきっかけがあると小さい事から取り組みやすくなるし、次は何をしようか考えられる気がする。(50代・女性)
- ・自分でできることは最低限実行しているつもりだが、社会全体で具体的に考えて実行している方は少ないと思います。(50代・女性)
- ・SDGsとして、取り組んだ方がよいことがマイチわからないです。(50代・女性)

ウェルビーイングについて

- ・ウェルビーイングは言葉を聞いたことがある程度でしたが、人間らしい生活を行っていくためには一番大切で必要なことだろうと思いました。(50代・女性)
- ・「SDGs」も「ウェルビーイング」も一般市民にとってはピンとこない活動。国や行政が市民へのPRや取り組み方を具体的に示す必要があると思う。(80代・男性)
- ・ウェルビーイングといった横文字の標題は止めて欲しい。綺麗で適切な日本語があるのだから。(70代・女性)

その他

- ・全部をいっぺんに叶えることは難しいと思うので、これをまず達成する！という目標を掲げてほしい。市民としては教育、環境問題、経済の課題を柱にしてほしい。(30代・女性)
- ・フードロスをもう少し検討して欲しい。ゴミに出してる所がまだ沢山あります。(60代・女性)
- ・自分自身少しづつ意識してきているがまわりの雰囲気はまだまだの様に感じられる。小さい頃からの意識付けが大事だと思います。教育現場からの指導が大事だと思うしそれが家庭へ。家族への意識づけの始まりだと思います。(70代・女性)